



米國ノ戰時經濟策二就テ

内池, 廉吉

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 23(6):875-896

(Issue Date)

1917-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052809>



經濟學
商業學

國民經濟雜誌

第二十三卷 第六號

(大正六年
十二月一日發行)

論

說

米國ノ戰時經濟策ニ就テ

神戸高等商業學校教授

商學士 內池 廉吉

一

米國ニ於ケル戰時經濟策ノ眼目ハ(一)聯合諸國ニ對スル財的援助、(二)自國用軍需品ノ調達、(三)以上二ノ目的ノ爲ニスル國內物資ノ開發、及供給調節、從テ生ズル國民經濟ノ獨立、(四)戰後ニ於ケル對外發展ノ準備等ノ諸項ニ歸スベシ。然ルニ右ノ中(一)聯合諸國ニ對スル財的援助ノ如キハ已ニ早ク戰亂勃發ノ後間モ無キ頃ヨリ行ハレタルトコロナレドモ、愈參戰ヲ宣言スルニ及ンデ、其行動ハ公明正大ノモノトナリ、爾來米國ノ朝野ハ誠意ヲ盡クシテ出來得ル限りノ援助ヲ與ヘツ、アルガ、同時

ニ(二)軍器食糧品等ニ對スル自國ノ需要益急切ヲ告グルモノアルヲ以テ、(三)國資ノ開發供給ノ調節等ニ就キ容易ナラザル苦心ヲ要スルコト、ナリ、晏如トシテ參戰前中立ノ第三者タルノ地位ヨリ貪リ得タル漁夫ノ利益ニ眩惑シテ毫モ他ヲ顧ミザルガ如キハ、到底之ヲ許ササルノ勢トナレリ。且開戰以來對聯合國物資供給者トシテ米國ノ獲得シタル收益ハ莫大ナルモノニシテ、軍器製造業ヲ初メトシテ各般ノ事業爲ニ異常ノ刺激ヲ享ケ、其生産能力爲ニ幾倍幾十倍ノ膨脹ヲ來シタルヲ以テ、若シ一朝平和回復スルニ當リテ、斯カル偉大ノ生産力ニ對シ、適當ノ市場ヲ用意セザルトキハ、忽チ生産夥多經濟恐慌ヲ促起スルハ火ヲ賭ルヨリモ明ナルベク、(四)戰後ノ市場トシテ海外有望ノ地ニ大々的發展ヲ試ムベシトノ希望ハ過去三年間米國ノ朝野ニ一貫シタルトコロニシテ、金融ニ海運ニ種々奇抜ナル計畫ヲ耳ニスルニ至リシガ、今春參戰以來ハ、專ラ自國竝ニ聯合國ノ軍需品及軍資金ノ調達ノ如キ當面焦眉ノ急務ニ忙殺セラレテ、動モスレハ右ノ對外發展準備ヲ等閑ニ附スルガ如キ觀無キニ非ズト雖モ、焦眉ノ急務ニ一段落ヲ告ゲ次第又々驚クベキ勢ヲ以テ對外發展策ノ計畫努力ニ殺倒シ來ルハ彼國今日マデノ遣リ口ニ徴シテ蓋シ疑ヲ容レザル所ナルベシ。而カモ是等焦眉ノ經濟策タル、徵稅、募債、食料品ノ調節、船舶

管理、貿易制限、物價公定等各種方面ニ互リ、隨分思ヒ切リタル處置ニ出デタルモノ多ク、以テ大ニ參戰ノ誠意ヲ證スルニ足ル、今是等ノ政策ヲ序スルニ當リ、少シク考慮ヲ價スルモノハ、這般政策ノ背景トモ謂フベキ各種ノ事情ナリトス。而シテ其事情凡ソ三アリ、(一)英米主義、(二)民主主義及(三)國家主義即チ之ニシテ、開戰ヨリ參戰ニ掛ケ、是等ノ主義ハ漸次濃厚トナリ、強烈トナリテ、米國ノ社會ヲ支配シ、各種ノ經濟策又常ニ是等ノ三ノ主義ニヨリ大ナル影響ヲ蒙ラザル無キノ有様ナリトス。

二

由來米國ハ雜多ナル人種ノ混住スルトコロナレドモ、其正系ハ謂フ迄モ無ク英國ヨリ移住セル「アングロサクソン」人種ニシテ、獨立戰爭ヨリ南北戰爭ニ掛ケ、國ノ大本ヲ築キタル偉業ノ大部ヲ彼等ノ努力ニ歸セザルヲ得ズ、彼等ハ獨リ數ニ於テ優勢ナルノミナラズ、質ニ於テモ優ニ他人種ヲ制スルノ勢アリ、其夙ニ獨立自由ノ旗下ニ英本國ノ羈絆ヲ脱シテ以來、英米互ニ睨視ノ間柄トナリ、同一人種ヲ以テシテ大西洋ノ彼方此方ニ犬猿雷ナラザルノ感情ヲ挾ムノ姿トナリタルガ、爾來後進國タル米國ノ國運隆々トシテ、今ヤ少クトモ經濟的勢力ニ於テ先進國タル英國ノ壘ヲ摩スルノ狀ヲ呈スルニ及ンデ、敵愾心ハ漸次消磨シ舊恨モイツシカ去リテ、次

第二血ハ水ヨリモ濃キ肉身ノ情味ヲ感ゼザルヲ得ザルノ有様トナリス、然ルニ近來各方面ヨリ英本國ニ壓迫ヲ加ヘタル獨逸ハ少カラザル移民ヲ米國ニ送リテ、内ナル「アングロサクソン」系ノ勢力ト平和トヲ動搖セシムルノ結果ヲ生ジタル爲、是等正系ノ米人ハ外ナル英國ノ舊親ト益相應ズルノ感ヲ生ジ、這般戰亂突發ヲ機トシテ、英米相憐ノ情ハ一層深厚トナリタルハ爭フベカラザルノ事實ナリトス、而モ戰亂以來米國ノ對外態度ガ常ニ不得要領ノ誹ヲ免レザリシモノ全ク近來國內ノ勢力タル獨逸系米人ノ制肘妨害ニ歸セザルヲ得ズ、彼等ハ前ニモ「ルシタニヤ」號撃沈ニ際シ、沸騰セル米國ノ輿論ニ反抗シテ獨逸膺懲ノ企ヲ抑エ、後ニハ英佛公債ノ募集ニ對シ、極力妨害ヲ試ムル等、事毎ニ英米ノ接近ト國論ノ統一トニ反對シタリ。然ルニ彼等ガ反對スレバ、反對スル程「アングロサクソン」系ノ感情ハ益激昂ノ度ヲ加フルノミニシテ、今春ノ參戰ハ正ニ斯クシテ抑制セラレタル感情ニ發露ノ機會ヲ與ヘタルモノト云フベク、英米ノ握手接近ハ反動的ニ一層ノ強固ヲ加ヘ來レルハ當然ノ成行ト謂フベシ。斯クシテ一旦「アングロサクソン」系ノ主張ガ國論ヲ制シタル上ハ、異分子ノ勢力ハ屏息セザルヲ得ズ、縱令戰後獨逸ガ國力ヲ舊態ニ復シテ、惡辣ナル手段ニヨリ、獨逸系米人ヲ操縱誘惑スルコトアルモ、又タトヘ中心快シト

セザルモ、既ニ一旦統一セル國論ノ下ニ、一致ノ態度ヲ誓ヒ、米國全體ノ爲ニ忠勤ヲ捧ゲタル以上、彼等ヨリ従前ト同様ナル裏切的行動ヲ期待シ能ハザルベシ、佛米關係ガ歴史上ノ理由ニヨリ親善ニシテ、且英佛ノ親善ガ當然佛米ノ親善ヲ増スモ、米國內ニ於ケル佛系ノ少數ナル、國內關係ヨリ佛米ヲ論ズルノ價值無キヲ以テ論ゼズ、斯ク英米主義確立スル上ハ、直接具體的ニ米國ガ英國及其與國ヲ援助スルニ何等ノ忌憚ヲ要セザルト同時ニ、米國ガ戰時ノ財政及經濟ヲ策スルニ當リテ、英國ノ經驗ヲ參照シ、無形的ニ英國ノ指導感化ニ浴スルノ狀アルモノ、蓋シ當然ノ成行ト謂フベシ。

次ニ這般戰亂ノ真相ハ歸スル所、英國ノ民主々義及平和主義ヲ以テ獨逸ノ專政主義及軍國主義ヲ打破スルニ在リテ、米國ノ如キ民主國ガ決然立チテ聯合國側ニ加擔シタルハ他ノ事情ヲ考慮セザルモ尙明ナル當然ノ歸結タリシナリ。斯クシテ擁護サレツ、アル民主々義ハ、米國戰時ノ財政經濟ニ尠カラザル影響ヲ及ボシツ、アリ、殊ニ租稅政策ノ如キ平時事無キニ當リテ稅率ヲ輕ウシ、稅源ヲ養ヒ、一朝戰時ニ際シテ稅率ヲ高メ稅收ヲ増加スルノ作用ヲ盡スヲ以テソガ要訣トナスベキモ、斯カル作用タル納稅者間ニ於ケル民主々義的思想ノ厚薄ニヨリ影響セラル、

コト頗ル多ク、民主々義旺盛ニシテ、納稅義務ノ自覺明瞭トナリ、且國民ガ課稅機關ニ參加シテ、直接之ヲ運轉スルノ程度強大ナルニ從テ、益租稅ノ伸縮力ヲ増加スベシト雖モ、民主々義幼稚ニシテ、國民ノ納稅觀念微弱ノ域ヲ脫スル能ハズ、官僚主義、專政主義等其威ヲ逞フシテ、課稅機關ニ對スル國民ノ直接交渉ヲ妨害スルガ如キ場合ニ在リテハ、到底租稅收入ニ有効ナル彈力ヲ期スル能ハザルベシ。現時ノ戰亂ニ於テ、獨逸ノ軍費調達ガ公債及ビ不換紙幣ニ重キヲ置キ、租稅ノ增收意ノ如ク行ハレザルハ、實ニ其官僚的政府ガ平時ニ於テ稅源ノ極度ヲ誅求スルノ態度ヲ示シ、國民ノ納稅觀念ヲ不健全ナラシメタルニ據ルモノト謂フベク、之ニ反シ英國ノ財政ガ戰時ノ稅收ヲ平時ニ數倍セシムルノ偉効ヲ奏セルモ、國民ガ何等不平ノ聲ヲ舉ゲザルモノ、之レ其民主々義ノ賜ト謂ハザルヲ得ズ、而シテ米國ノ民主々義ハ此點ニ於テ毫モ英國ニ劣ラザルノ成績ヲ舉ゲツ、アリ、即チ其戰時增稅計畫ノ内容ガ所得稅、戰時利得稅ノ如キ直接稅ニ重キヲ置キ、其稅率五割若クハ六割ノ高率ヲ唱フルニ、關稅、消費稅等ハ概シテ舊率ニ委セラレ、增稅豫定額ニ於テ、平時ニ五倍スルノ計算ナリ、又各種物價及運賃ノ制限ノ如キ、國民本位ノ政策ガ頻々トシテ行ハル、モ爲ニ國民ノ不平ヲ聞カザルモノ以テ民主々義旺盛ノ跡ヲ窺フベシ。

更ニ這般ノ參戰ニヨリ米國ニ國家主義ノ隆盛ヲ致シタルハ看過スベカラザルノ事トス、米國ノ經濟ニ於テ個人主義頽リ、國家本位ノ干涉主義起リタルハ、昨今ノ事ニ非ズ、政治上ニ於テモ地方分權主義衰ヘテ、中央集權主義漸次盛トナリツ、アルハ明ナル事實ナルガ、國家主義ノ遂行ニ必要缺クベカラザル國防ノ點ニ至リテハ、頗ル遺憾多シトスル所ナリキ。然ルニ戰亂ノ繼續ハ國防不備ニ伴フ當來ノ危險ニ就キ痛切ナル覺醒ヲ促ガシ、先ヅ千九百十六年八月國防會議ヲ起シテ、軍備ノ大方針ヲ議セシメ、尋デ二回ニ互ル増稅ニヨリ歲計ヲ倍加シテ、陸海軍備ノ擴張ニ資スルアリシガ、參戰後一箇月ニ過ギザル五月十八日、新ニ徵兵令ヲ布キ、全國ヨリ登錄セラルベキ二十一歲乃至三十歲ノ男子一千萬人中ヨリ、不取敢五十萬人ヲ徵募シテ、正規兵ニ編入シ、漸次之ヲ百萬人トナスノ計畫ヲ立テ、六月ニハ六億四千萬弗ヲ投ジテ駛空隊ヲ組織スルノ案ヲ發表シ、又海軍援助及時局用運搬ノ目的ヲ以テ、新ニ七億五千萬弗ヲ投ジテ船舶ヲ建造シ、應急艦隊組合 (Emergency Fleet corporation) ヲシテ一切ノ船舶管理ニ任ゼシムル等、或ハ臨時的ニ或ハ永久的ニ國防充實ヲ企圖シツ、アルガ、一方内部ニ在リテハ國民經濟ノ獨立ヲ確實ニシ、且ツ其内容ヲ豐富ナラシムル爲、アラユル手段ヲ用フルニ躊躇セズ、而カモ是等ノ手段タル常ニ國

民全體ノ利益ヲ主トシ、個人ノ利益ヲ或ル程度マデ犠牲ニ供スルモ厭ハザル底ノモノニシテ、其間國家主義ノ一貫ヲ看過スルヲ得ザルベシ。

三

戰時政策ノ特徴ハ財政計畫ノ上ニ著シク顯ハレタリト雖モ、財政事情ニ就テハ既ニ國民經濟雜誌第二十三卷第一號及第二號ニ略述シタルヲ以テ、之ヲ省キ、一般經濟方面ノ施設ヲ觀ルニ、其最モ著名ナルモノヲ食料品ノ管理、貿易制限、及ビ物價公定ニ關スル劃策ノ三トナス。

食料品ノ供給調節ニ就テハ參戰以來米國政府ノ苦心慘愴スルトコロナリシガ、八月十日ニ至リ、食料品管理法(Food Control Act)竝ニ食料品検査法(Food Survey Act)ヲ發布シ、ハーバートフーヴァー(Herbert C. Hoover)ヲ食料品管理官ニ任命シ、法令ノ實行ニ當ラシメタリ。フーヴァー氏ハ白耳義救濟資金ノ委員長トシテ、令名アル人ナルガ、參戰ト同時ニ、ウイルソンノ幕下ニ參ジ、專ラ食料品ノ管理ニ就キ劃策スルトコロアリシガ管理法出ヅルニ及ンデ、特ニ無報酬ニテ管理官ノ職ニ當ルノ希望ヲ通ジテ、大統領ノ容ル、トコロトナリタル次第ナルガ、氏ハ該法ノ目的トスルトコロ凡ソ三アリトシテ、曰ク、第一、有害ナル投機取引、暴利ノ獲得等ヲ禁止シテ、以テ基

礎的食料品ノ賣買ヲ健全ナラシメ、且其價格ノ恒平ヲ計ルコト、第二、食料品ノ輸出ヲ監督調理シテ、現時ノ世界的不足ニ對シ、國民ノ供給ヲ豊富ナラシメ、且聯合諸國ト協力シテ價格ノ暴騰ヲ制スルコト、第三、食料品ノ節約ニ關シテ、最善ノ手段ヲ講ジ、以テ聯合國ニ對スル輸出ヲ増加シ、來ルベキ冬期ニ要スル軍隊及留守居國民ノ食用ヲ充分ナラシムルコト、之レ食物管理法ノ眼目ナリト、思フニ戰亂ノ延引ハ海陸戰線ヲ夥シク延長セシムルト同時ニ、之ヲ錯綜セシメ、聯合國ニ於ケル食料品ノ輸入ヲ益不安ニ陷キルノミナラズ、壯丁ノ徵募ハ農耕ノ荒廢ヲ止ムナカラシムル爲、食料品ノ供給、漸次困難トナラザルヲ得ズシテ、今年ノ如キハ聯合國ヲ通ジ、小麥ノ不足高三億、ブツシエルニ上ルベク、假リニ米國ヨリスル輸出ノ最大限タル二億二千五百萬、ブツシエルヲ獲得スルモ、尙彼等ハ常時消費ノ二割五分ヲ節減セザルベカラザルノ苦境ニ在リ、然ルニ米國ニ在リテハ、千九百十五年ニ小麥ノ大豐作（十億ブツシエル）ヲ見タル以後、二箇年續ノ凶作ニテ、平常ナレバ輸出能力八千萬、ブツシエル）ヲ超ユベカラザルニ、今眼前二億二千五百萬、ブツシエルノ火急ナル要求ヲ控エテ之ヲ如何ニ處理スベキ乎、加フルニ船腹ノ減少ハ嵩高品ノ運搬ヲ許サズ、食料品中野菜、玉蜀黍及魚類ノ如キハ、之ヲ内地ニ保留シテ小麥、牛肉、豚肉、乳酪ノ如

キ營養果ノ比較的大ナルモノヲ輸出スルノ必要アリ、之ヲ自然ニ放任センカ、適當ナル需給ノ配合ヲ誤リ、味方軍勢ノ能率ヲ損スルノミナラズ、計ルベカラザル穀肉類ノ暴騰ヲ來スヲ免レザルヲ以テ、政府ノ干涉ヲ以テ之ヲ調節スルコト止ムヲ得ザルモノアリシナリ、從テ食料品取締法ノ内容タル、可也廣キ範圍ヲ有スルノミナラズ、必要ニ應ジ、規定ノ補足ヲ生ズルニ至ルベシト雖モ、右發布當時ノ規定ニ基キ、其要領ヲ記セバ左ノ如シ。

(一)管理法ノ目的物ハ食料品ヲ主トスルモ、食料品以外ニ飼料、燃料、石油、自然瓦斯、肥料、肥料成分及ビ食料品飼料、燃料等ノ生産ニ必要ナル機械器具、設備等ヲ含ム即チ法令上是等ヲ必要品ト總稱ス。

(二)價格ノ公定竝ニ最低價格ノ設置ハ食料品ノ供給調節上頗ル重要ノ規定ナルガ、近來戰時ニ於ケル經濟的激變ガ物價ノ暴騰ヲ來タシタル爲、之ヲ人爲的ニ抑制スベシトノ論盛トナリシモ、サリトテ過度ノ引下ハ却ツテ生産者ヲ苦境ニ陷レ目下緊急ノ必要アル物資ノ供給ヲ杜絶セシムルヲ以テ、所謂正當價格(just price)若クハ公平價格(fair price)ノ論ヲ生ジ、少クトモ戰時ノ急需ヲ滿スニ足ル丈ケ、物資ノ生産ヲ増加スル爲、生産費ヲ填補シテ、尙平時ニ勝ルノ餘利ヲ剩ス丈ケノ價格ヲ生産者ニ

保證シ、之ヲ最低價格トシテ、出來得ル限り之ニ接近セル點ニ於テ、賣買價格ノ引下
公定ヲ遂グルヲ以テ其理想トナスコト、大統領モ演說中ニ屢々論及シタルトコロ
ナルガ、遂ニ食料管理法ニ於テ其實現ヲ見ルニ至レリ、即チ其第十四條ハ穀物ノ最
低價格ニ關スル規程ニシテ、先ヅ小麥ニ對シ千九百十八年產ヲ一「ブツシエル」二弗
ト定メ、千九百十九年五月一日マデ効力ヲ認ムルコト、シ、市價其以下ニ落ツルト
キハ政府補償ノ任ニ當ル、且ツ第十一條ハ小麥、麥粉、肉類、豆、馬鈴薯ニ就キ大統領ノ
必要ト認ムル時ハ何時ニテモ最低價格アルモノハ其定額ヲ下ラザル範圍ニ於テ、
適宜ノ數量ヲ相當ノ價格ニテ購入、貯藏、販賣スルコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ。尤モ
現ニ最低價格ヲ有スルモノハ、千九百十八年產ノ小麥ニ過ギザルヲ以テ、今千九百
十七年產ノ小麥其他ノ食料品ニ對シ價格ヲ公定スルニハ特ニ充分ノ調査攻究ヲ
爲スノ必要アリ、之ガ爲法令發布ト同時ニ、價格決定委員ナルモノヲ設ケ、主トシテ
確實ナル食料品營業者及ビ消費者側ノ代表者ヨリ任命シ、「ウイリヤム」大學總長ガ
「フイールド」委員長トシテ買上價格ヲ協定シツ、アリ。

(三)食料品ノ徵發及賣買ノ官營ハ第十條及第一條ノ規定スル所タリ、即チ政府ガ
海陸軍ノ維持其他共同ノ防禦ニ必要ト認ムルトキハ相當ノ代金ヲ支拂フテ、人民

ノ所有ニ係ル食物、燃料、飼料等ヲ強制的ニ徵發スルコトヲ得ルト同時ニ、前節ノ方法ニヨリ、隨時食料品ノ賣買ヲ行フコトヲ得ルモノトス、而シテ賣買手數料ハ實費ニ限ラル、又賣買上ノ必要ニ從テ、全國主要ノ土地ニ政府ノ代理人ヲ設クルモノトス、而シテ是等ノ實務ヲ處理スル爲、特ニ資本金五千萬弗ノ穀物會社(Food Administration Grain Corporation)ヲ設ケ、政府資金ヲ以テ全株金ヲ拂込ミ、食糧品管理官ニ直屬シテ内外ノ穀物賣買ヲ司ラシムト謂フ。

(四)食料品價格ノ不時ノ亂高下ヲ制スル爲、左ノ如キ方法ヲ用フ。

(1)九月一日以後小麥ノ定期取引ヲ禁止ス。

(2)穀物倉庫及製粉所(一日ノ產高百樽以上ノモノ)ヲ政府ノ管理ニ收メ、左ノ如キ條件ヲ備フルモノニ限り、業務經營ノ特許ヲ與フ、但農民倉庫ハ除外例トス。

イ、其保管行爲ニ對シ、單ニ通常ニシテ相當ナル料金ヲ課スルコト。

ロ、食糧品管理官ノ承諾ヲ經ルニ非ザレバ、三十日以上小麥ヲ保管スルコトヲ得ズ。

ハ、穀物ノ受入及搬出ニ關シ、一定ノ報告ヲ定期的ニ政府ニ差出スベシ。

(3)必要品ノ惡意ノ貯藏ハ不法トス、而シテ惡意ノ貯藏トハ(一)何人ニテモ自己及

其家族ガ相當ノ期間ニ於テ日常ノ生活ニ必要ナル額ヲ超エ(二)商工業者ニシテ其營業ノ實行ニ必要ナル高ヲ超エ(三)其他何人ニテモ價格ノ騰貴ヲ豫期シテ必要品ヲ貯藏又ハ賣惜ヲ爲スコトヲ謂フ(第五條第六條第七條)

(4)穀物ノ輸出モ其都度管理官ノ特許ヲ要ス、尤モ本件ハ後段輸出制限ニ關スルヲ以テ今之ヲ略ス。

(五)食糧品ノ節約ハ又食糧品管理法ノ重大ナル目的ナルガ、法律面ニ顯ハレタルモノハ、其第十五條「ウイスキー」製造禁止ニ關スル規定ニ過ギズ、之ニ據レバ、本法發布後三十日後ニ於テ、飲料用トシテ「ウイスキー」製造ノ爲、穀物ノ使用ヲ絶對ニ禁止スルモノトス、然ルニ食糧品節約ノ事タル、管理官「フーヴァー」氏ノ最モ努力スルトコロニシテ、先ヅ農務省ヲシテ食料品消費ニ關スル統計ヲ蒐集セシメ、尋デアラユル機會ヲ利用シテ、婦人ニ食料品節約ヲ警告シ、殊ニ十月十八日ヨリ一週間ノ節約日ヲ設ケテ、國民的覺醒ヲ促ガス等、反覆運動怠リ無キノ有様ナリトス。

(六)政府ハ又タ千九百十七年ヨリ千九百十八年ニカケ農耕生産増加ノ目的ヲ以テ、肥料ノ成分タル鹽酸曹達ヲ買上ゲ、實費ニテ販賣スルノ權能ヲ收メタリ(第二十七條)

斯クシテ、政府ハ管理法實施ノ爲、必要ノ經常費ヲ分チタルノミナラズ、穀物買上資金トシテ一億五千萬弗、鹽酸曹達買上資金トシテ一千萬弗ヲ投ズルコト、セリ。

四

次ニ貿易ノ制限ハ物資ノ輸出禁止ト輸入禁止トニ分レ、今ヤ米國ノ爲ストコロ前者ヲ以テ満足セズ、漸次後者ニ及バントスルノ氣勢ヲ示シツ、アリ、思フニ戰時交戰國間ニ貿易ノ杜絶ヲ觀ルハ當然ノ成行ナレドモ、交戰國ガ中立國ニ對シ貿易ノ制限ヲ行フハ、中立國ガ其受クルトコロノ物資ヲ敵國ニ轉賣シテ、輸出セル交戰國ニ不利益ヲ來タスガ爲ニシテ交戰國ガ開戰ト同時ニ、戰時禁制品ノ取捨管理ニ腐心スル所以ナルガ、參戰以來米國ノ行動ハ獨リ此中立國ニ對スル輸出ノ禁止制限ヲ目的トスルノミナラズ、聯合與國ニ對シテモ各種ノ禁輸ヲ斷行シテ聊カ臆面ナキモノ、如ク、實ニ其政策ハ世界ノ耳目ヲ聳動シツ、アルトコロナリトス、サレド當初ノ方針ハ全ク敵國竝ニ中立國ニ對スル輸出禁止ヲ目的トシタルハ疑フベカラザルトコロニシテ、其法令ノ第一步ヲ今年六月十五日公布ノ探偵法(Espionage law)トナス、同法ハ戰時ニ際シ米國ノ平安ヲ害スルガ如キ各種ノ危險ヲ防止シ且ツ制裁スルノ目的ヲ以テ、立法セラレタルモノニシテ、敵探ノ偵察、戰時米國港灣ニ於

ケル敵船ノ處分、外國貿易ニ從事スル船舶ニ危害ヲ加フルモノ、制裁、中立ノ維持、軍器ノ沒收、外國旅行免狀、戰時郵便等ニ關スル詳細ナル規程ヲ設ケタルガ、其ノ第七條ニ於テ現時ノ戰亂中、大統領ガ公共安全ノ爲必要ト認ムル場合ニハ適宜布告ヲ發シテ、或ル種ノ貨物ノ輸出ヲ不法ナラシムルヲ得ベキコトヲ規定シタリ。而シテ此目的ヲ達スルノ手段トシテ、六月二十二日輸出禁止會議(Export Embargo Council)ノ組織ヲ見タリ、本會議ハ國務大臣ランシング商務大臣レツトヒールド農務大臣ハウストン及食糧品管理官フリーグァーノ四氏ヲ以テ組織シ、大統領ヲ援助シテ、穀物石炭等ノ輸出ニ關スル大方針ヲ決定ス、而シテ實地事務ノ施行ニ任ズルハ、商務省內ノ輸出特許部(Division of export license)ニシテ、制限ヲ加フベキ輸出貨物ノ範圍輸出特許ヲ與フベキ相手國貨物ノ數量等ノ如キハ總テ輸出禁止會議ノ審議ニ由テ決セラレ、會議ハ其結果ヲ輸出特許部ニ通牒シテ實行ヲ期ス、輸出禁止會議ガ是等ノ事項ヲ審議スルニ當リテハ、特ニ備ヘタル統計部ノ調査資料ニ基キ各國ニ於ケル戰時必要品ノ需給狀態ヲ察シ、殊ニ敵國トノ通商關係ニ注意シテ、米國ヨリスル輸出品ノ許可額ヲ相當國ニ割當テ、其範圍內ニ於テノミ、輸出特許ヲ交付セシムルモノトス、而シテ七月九日大統領ハ特許ヲ受ルニ非ザレバ輸出シ能ハザル貨物ヲ

指定セシガ、二十二日ニ至リ、商務大臣ハ更ニ其範圍ヲ擴張シテ左ノ如クセリ。

石炭、煉炭、燃料用油、燈火用油、「ベンヅル」、「ナフサ」、「ベレヂン」、赤油、石油、「ガソリン」等

穀物、粉、玉蜀黍粉、大麥、米粉、米、「ガートミール」、「ロルドオート」、飼料、油菓、「マルト」、落花生等

肉類、脂肪、家禽、綿種油、「コーレオイル」、「コブラ」牛酪、魚等

動物性及植物性食用油、飼非食用油、「リンシード」油、野菜、罐詰、煉乳、落花生油、菜種油、牛脂、「ステリツク」酸等

銑鐵、鋼鐵、鋼鐵板、其他各種鐵物等

肥料、家畜用飼料、鹽酸曹達、「ボッターシユ」、磷酸、硫酸、鳥糞、「アンモニヤ」、骨粉、其他ノモノ

軍器、爆發物、鹽酸加里、硫黃、硝石、丁列綿油、樹脂等

是等貨物ノ對中立國輸出取締ニ關シテハ、夙ニ英國官憲ニ於テ嚴密ノ注意ヲ拂フ所ナリシガ、米國ガ右ノ制限ヲ加フルニ及ンデ、一層有効ナル結果ヲ奏スルコトトナリ、之ガ爲差當リ、大ナル苦痛ヲ蒙レルハ、丁抹和蘭等ノ中立國ニシテ、何レモ引續キ委員ヲ米國ニ派シテ、解禁ヲ哀願セシモ、到底目的ヲ達スルコト能ハザルモノノ如シ、然ルトコロ參戰行爲漸次廣大トナルニ從テ、軍需品ノ需要愈急トナリ、殊ニ不足ヲ告ゲツ、アル船舶ヲ急造シ、少クトモ一箇年內ニ七百萬噸ヲ増加スルノ計畫ヲ立テタル爲、如何ニ天然資源豐富ナルモ、斯ノ如キ急激ナル生産ノ増加ニ對シテ、充分ナル原料ヲ供給スルコト、容易ナラズ、タトヘ供給ノ數量ニ於テ差シタル不足無シトスルモ、原料品ノ輸出ヲ自然ニ放任スルトキハ、徒ニ市價ノ暴騰ヲ來シテ

財政ノ澁滞ヲ促スベク、又政府ガ一方ニ於テ鐵、石炭等ノ價格ヲ公定シタル場合ニハ斯カル割安ナル價格ヲ以テ外國ノ顧客ニ賣却スル時ハ、戰時ノ餘波トシテ內國商ガ得ラルベキ當然ノ利益ヲ外國人ノ爲ニ犠牲ニ供スルノ結果トナリ、之ヲ原料ニ供シテ暴利ヲ占ムル外國ノ工業ノ爲、無益ノ損失ヲ重ヌルガ如キ次第トナルヲ以テ、イツシカ米國ノ禁輸政策ハ中立國ノ領域ヲ超エテ、一般外國ニ及ビ其聯合國タルノ故ヲ以テ、特惠ヲ施スノ餘裕無キ迄ニ進ミタリ、之レ戰時經濟ノ主眼ハ國民經濟ノ獨立ニ在リ、國民經濟獨立ノ基礎トシテ必要ナル原料品ノ供給ヲ潤澤豐富ナラシムルコトガ、結局國ノ生命ヲ維持スル要件ニシテ、之ガ爲ニハ聯合國ノ好感ヲ或ル程度迄犠牲トスルモ如何トモシ難キコトヲ感念シタルガ爲ナラン、斯クシテ八月三日大統領ハ輸出管理局 (Exports Administrative Board) ニ命ジテ鋼及鐵製品ノ輸出ヲ禁ゼシメ、同十五日以後ハ聯合國ニ對スル場合ニモ實際軍用ニ供セラル、カ、又ハ戰爭ノ目的ニ供セラル、事ノ證明ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ禁止スルコト、セリ。然ルニ米政府ハ斯カル原料品ノ禁輸ヲ以テ満足セズ、九月十日ニ至リ金ノ輸出ヲ禁止スルニ至レリ、戰亂開始以來夥シキ輸出超過ノ爲、三年間ニ百二十億弗ノ金ヲ吸收シ得タル米國ガ突如トシテ金ノ禁輸ヲ聲明シタルハ世ノ一齊ニ驚嘆ス

ルトコロナルガ、禁輸令ニ先ヅ三箇月間、金ノ流出幾分流入ニ超過スルノ勢ヲ示シ殊ニ一日乃至八日ノ總輸出高(二億七千萬弗)ノ過半ガ日本ニ吸收セラレタルノ事實アリシヨリ、端ナクモ日本妨害ノ意圖ヲ喧傳セラル、ニ至リシガ、此舉必ズシモ日本ヲ目的トシタルモノニ非ズ、戰亂開始以來紐育金融市場日ニ日ニ重キヲ致シ、倫敦ニ代ラントスルノ傾無キニ非ズ、金融中樞ノ機能ヲ全フスル爲、金ノ貯藏準備ヲ要スルノ程度益重大ナルモノアリ、廣キ意味ノ國民經濟獨立上、金ノ流出ヲ等閑ニ附スベカラザルノ事情ニ基クモノト謂フベク、結局經濟上ニ於ケル國家主義的思潮ノ發露ト稱スルモ不可ナカルベシ、加之輸出制限ハ一步ヲ進メテ生絲、絹、茶等ノ輸入制限ニ轉ズベシトノ噂一時盛トナリシガ、斯カル物資ノ驅逐ハ米國ノ生産能率ヲ害スル恐無キニ非ズシテ、其實行容易ナラズト雖モ、以上ノ噂ニ於テ貿易ノ均衡ヲ維持シテ正貨ノ流出ヲ防ガンガ爲ニハ或程度迄必要品ノ輸入ヲ制セザルベカラザルノ意思ノ一端ヲ窺フニ足ル。

(註) 十月六日對敵貿易法ノ發布アリ、戰時貿易局(War Trade Board)ヲ新設シテ從來ノ輸出管理局ノ事務ヲ司ラシムルコトトナレリ。

五

更ニ價格ノ公定ガ食糧品ニ就キ行ハレ居ルコト既ニ述ブルトコロノ如クナル

ガ、食糧品管理法ハ燃料及肥料ニモ適用セラル、結果、先ヅ石炭ノ價格公定セラレ、尋デ肥料ニモ及ブモノ、如ク、進ンデハ食糧品管理法ノ適用外ナル貨物即チ鐵、銅、紙等ニモ波及スルニ至レリ、而シテ此種貨物ノ價格制限ニ就テハ聯邦商業委員(Federal Trade Commission)之ガ司掌ノ任ニ當ル、聯邦商業委員ハ千九百四十年新「トラスト」法ニ據リ設ケラレタルモノニシテ、米國內ニ於ケル不正競爭及ビ不公平ナル價格ヲ抑壓スル爲、必要ノ手段ヲ講ズルノ權能ヲ有ス。

開戰以來諸物價暴騰ヲ來スヤ、該委員ハ各種商人間ニ買占其他ノ獨占行爲行ハレザルヤニ就キ、調査檢舉ニ怠リ無ク、手初ニ野菜商ノ合同ヲ摘發シテ、裁判ニ附セシガ、食糧品管理法出ヅルニ及ンデ、石炭ノ價格ニ就キ、精細ノ研究ニ從事シ一方、ワシントンニ有力ナル營業者ヲ召集シテ、適當ナル炭價ヲ協定セシメタルガ、八月二十一日此協定炭價ニ二割乃至三割五分ノ減價ヲ施シ、新ニ公定炭價ヲ作成シテ、大統領ノ承認ヲ經タリ、次ニ銅及鐵類ノ價格モ引續キ公定ヲ見ルニ至リタルガ、何レモ政府ガ所要ヲ買上グルニ當リテ、之ニ準據シ、同時ニ一般市場ノ購入者ヲシテ之ニ據ラシメ、買上價格ト市場價格トノ均衡ヲ保ツヲ期スルモノナルガ、其價格タル從來ノ市場價格ニ比シ、或ハ五割或ハ七割等ノ低下トナルノ有様ナリトス。

政府ガ右ノ如キ低價ヲ強制スルハ、戰時ノ暴利者ヲ抑制シ、軍隊船舶竝ニ一般工業ノ經營費ヲ輕減シテ、國防及生産ノ基礎ヲ強固ニシ、且一般消費者ノ生計上ノ苦痛ヲ除去スルニ在リテ、アラユル方法ヲ以テ頻リニ當業者ノ愛國心ニ訴ヘ目的ノ遂行ニ努力シツ、アリ、ウイルソンモ屢演說ニ布告ニ「今ヤ千歲一遇ノ危機ニ際シ幾十萬ノ同胞ガ身命ヲ賭シテ奮戰シツ、アルニ當リ、後方ニ於テ物資ヲ供給スル者ガ其勞務ヨリ得ベキ報酬ノ多寡ヲ問フガ如キ、真正ナル人ト謂フヲ得ベキカ、真正ナル愛國者ハ同胞ノ身命ヲ犠牲トシテ自己ノ財ヲ積ムヲ屑シトスルカ、」トノ意ヲ反覆說述シ、且政府ノ公定價格ハ正當ナル價格ニシテ、價格ヲ不當ニ引下ゲテ生産ノ基礎ヲ破壞セントスルモノニ非ザル旨ヲ明ニシタリ、(By a just price I mean a price which will sustain the industries concerned in a high state of efficiency, provide a living for those who conduct them, enable them to pay good wages, and make possible the expansion of their enterprises which will from time to time become necessary as the stupendous undertakings of this great war develop. We could not wisely do less than pay such prices. They are necessary for the maintenance and development of industry and the maintenance and development of industry are necessary for the great task we have in hand.)

六

三年ニ互ル戰亂ノ好影響ニヨリ異常ノ興奮ヲ享ケタル米國ノ經濟界モ、參戰後ニ於ケル各種驚天動地ノ經濟策ニヨリ、尠カラザル動搖ヲ來シツ、アルコトハ爭フベカラザルトコロトス。殊ニ軍器製造業者ノ如キ、増税ト賣價制限トニヨリ二重ノ打撃ヲ蒙リタレバ、其株式ノ如キモ暴落ヲ來サルヲ得ズ、軍器製造會社ノ標本トモ謂フベキ〔ベツレヘム〕製鋼所株式(一〇〇%ニ對シ)ノ如キ下ノ如ク下落セリ。

一九一六年二月 七〇〇

一九一七年二月 五一五

一九一七年八月 一一二

一九一七年十月 七八

斯クテ軍器製造所ノ株價ハ略ボ戰前ノ常態ニ歸レリト雖モ、斯カル激變ハ寧ロ異例ニシテ、一般株式市場ハ今日迄ノ處差シタル惡影響ヲ蒙ラザルモノ、如ク、唯鐵道株船舶株ガ一般ニ下落シタルアルノミニテ或ル物ハ却ツテ騰貴セルアリ、今三四ノ株式市價ヲ左ニ掲グ。

一九一七年一月 最高

同上 最低

「リーザング」鐵道

一月三日 一〇四

五月二十一日 八三

「紐查」セントラル

一月四日 一〇三

八月二十三日 八一

「テラウエヤハドソン」

一月十九日 一五一

八月二十一日 一〇〇

「シカゴ、ミルウオーキー
セントポール」

一月四日 九二

七月五日 六五

「ユーナイテッド、スチール」

五月三十一日

一三六

同 優 先 株

一月十九日

一二一

「インターナシヨナル、マリシ」

一九一六年九月

五〇

「タバコ」生産

八月二十一日

八〇

合衆國葉卷煙草

八月十四日

一二七

「クルンブルスチール」

七月二日

九一

思フニ物資ノ開發ト商工業ノ殷振ハ參戰ニヨリテ何等其勢ヲ縮ムベキモノニ非ズ、正貨ノ流入稍衰ヘタルモ輸出超過ノ勢ハ尙旺盛ナルモノアリテ、今次千歲一遇ノ時局ヲ救フベク綽々タル餘裕ヲ存スルモノ、如シ、而カモ尙食糧品ノ管理ニ、船舶ノ統一ニ、貿易ノ制限ニ、物價ノ公定ニ、米國ノ劃策努力スルトコロ、人ノ意表ニ出ヅルモノアルハ、之レ結局彼國ニ於ケル國家主義、民主々義ノ英米主義ノ盛ナル發動ニ歸セザルヲ得ザル也。